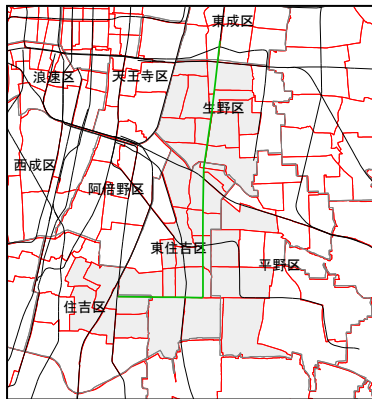
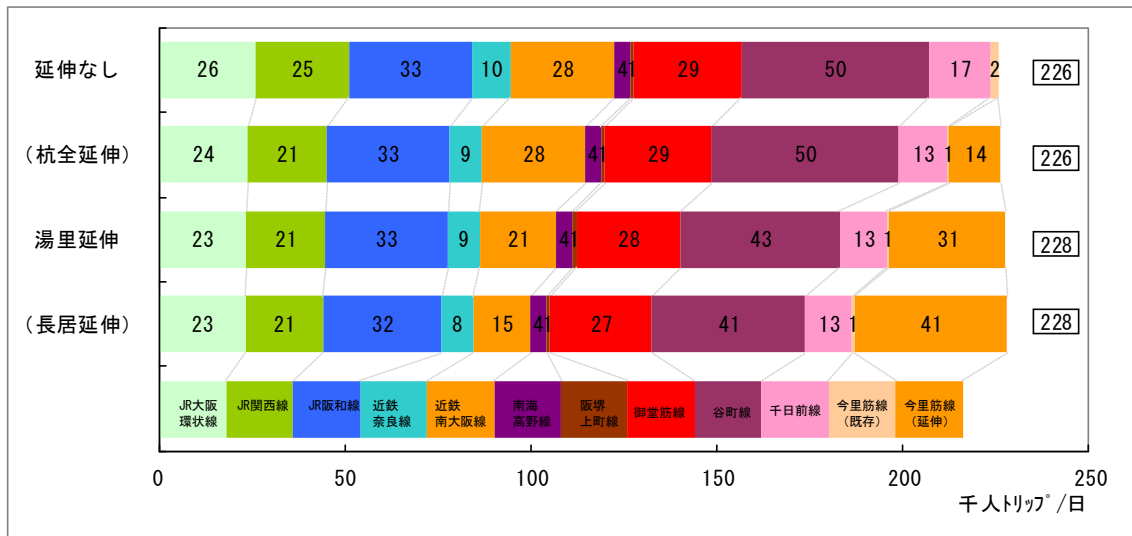


（５）利用駅の変化

沿線からの鉄道利用は、定着による人口増および他手段（バス・自動車）からの転換により、合計の鉄道利用は微増する。

また、圏内の利用駅は、延伸によりＪＲ関西線や千日前線からの転換が進み、特に湯里延伸および長居延伸では、近鉄南大阪線からの転換が大きい。



左の範囲を発着する初乗乗車および最終降車の駅を路線別に集計した。
(ただし乗車・降車の両方をカウントしているため、範囲の内々トリップは2回カウントしている。)

図 2-33 沿線からの利用路線の変化

沿線のうち生野区では、沿線の周辺を囲む J R 大阪環状線・千日前線・近鉄奈良線・ J R 関西線からの延伸部の駅への転換が見受けられる。

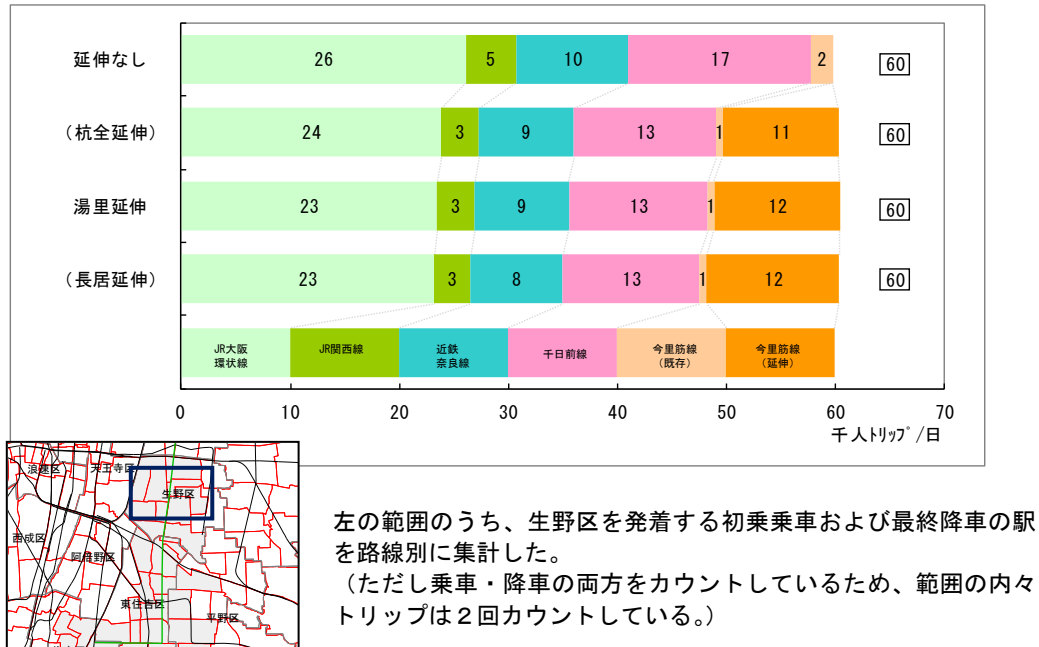


図 2-34 沿線からの利用路線の変化

沿線のうち東住吉区・平野区では、交差する谷町線と並行する近鉄南大阪線からの転換が見受けられる。

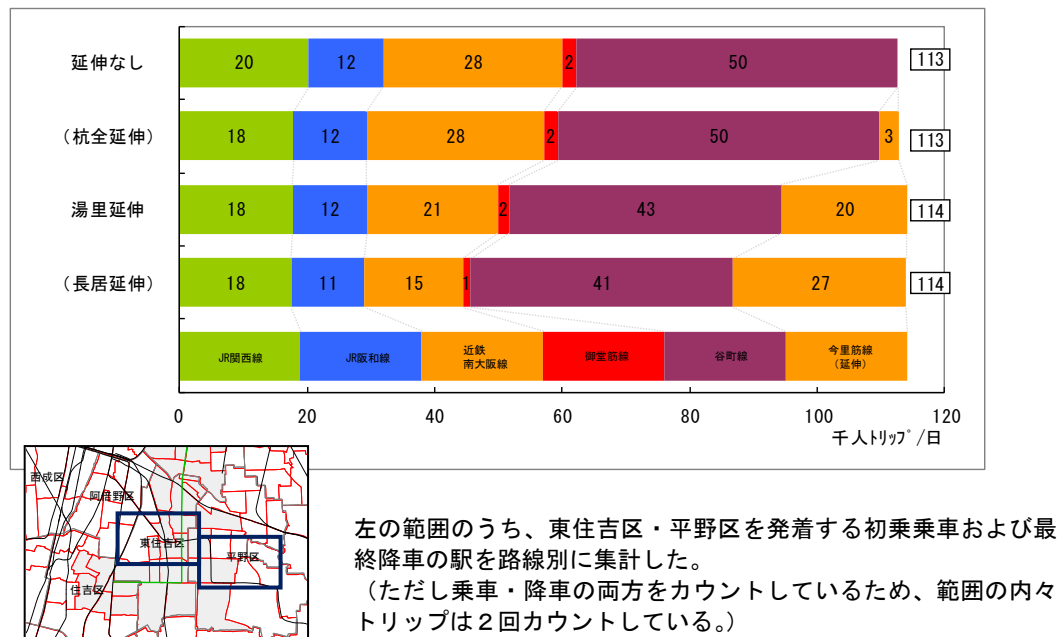


図 2-35 沿線からの利用路線の変化

沿線のうち住吉区では、長居延伸の場合にのみ駅勢に含まれるため、長居延伸の際に、J R 阪和線からの若干の転換が見受けられる。

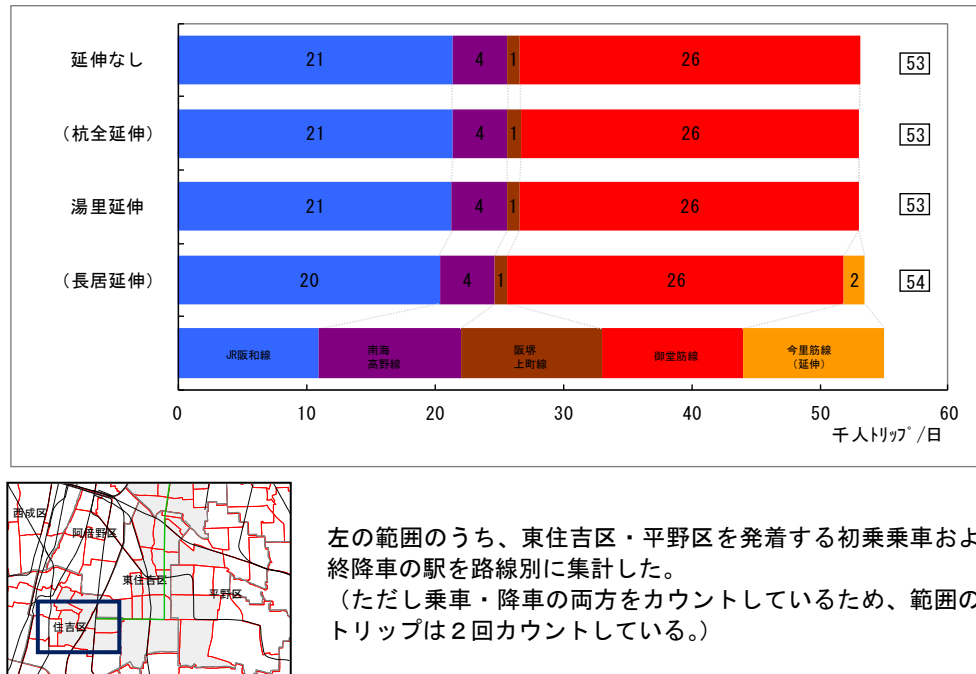


図 2-36 沿線からの利用路線の変化

（６）利用者の発着地分布

市区町村別の発着地の分布を見ると、湯里延伸では利用者の発着地分布は生野区・平野区・東住吉区が多く、沿線４区で半分以上となっている。

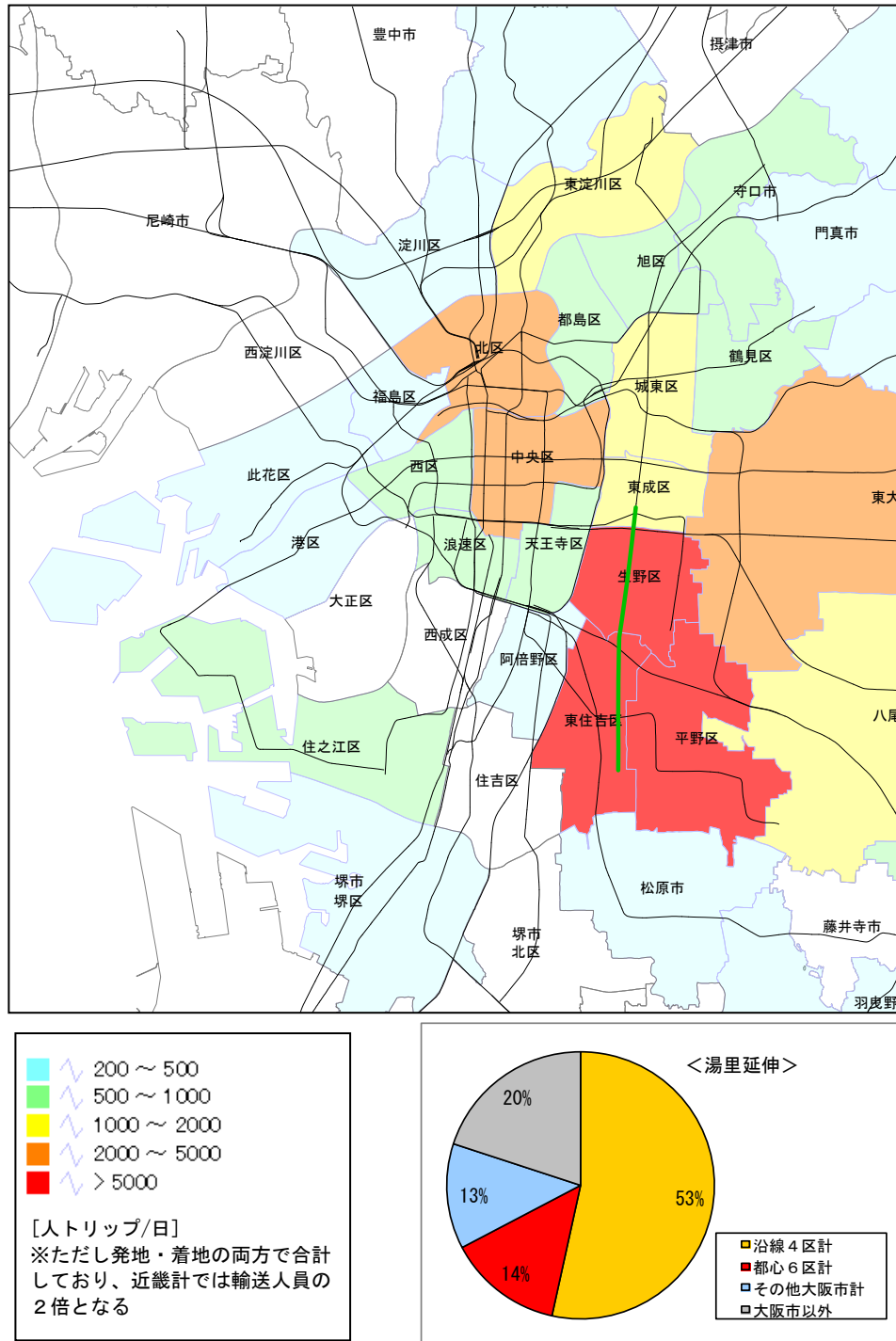


図 2-37 湯里延伸での利用者の発着地分布(ケース:湯里延伸)

杭全延伸では、湯里延伸と比べて延伸のない平野区・東住吉区で少なくなっているほか、天王寺区や阿倍野区などの都心側で分布が少なく、大阪市東部での南北移動での利用が主となっている。

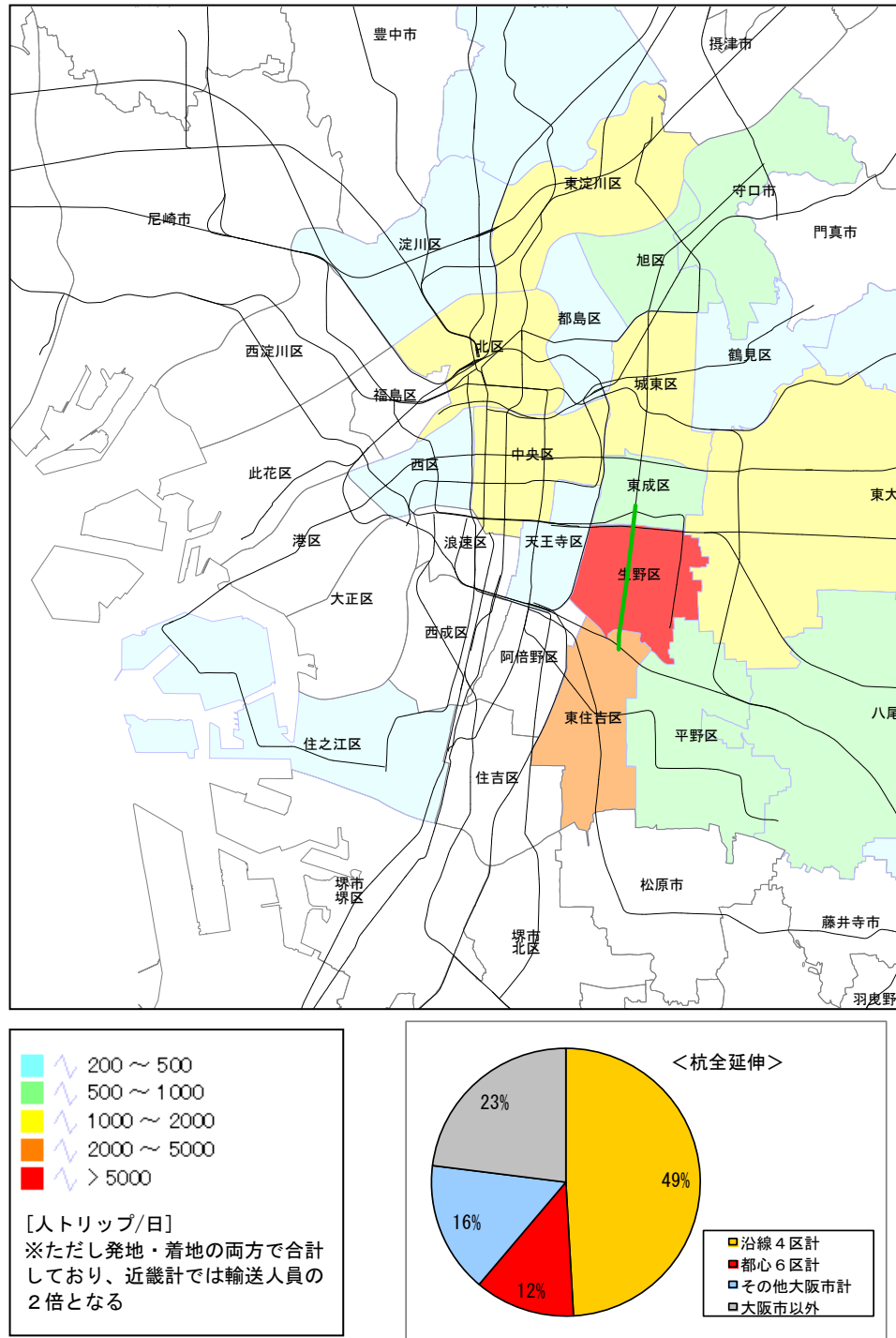


図 2-38 杭全延伸での利用者の発着地分布(ケース:杭全延伸)

長居延伸では、湯里延伸の場合に分布のほとんど見られなかった住之江区・堺市北区方面の発着地分布が増加し、御堂筋線の沿線との接続の効果が见られる。また、大阪市都心6区でも、西区・天王寺区・阿倍野区などで増加している。

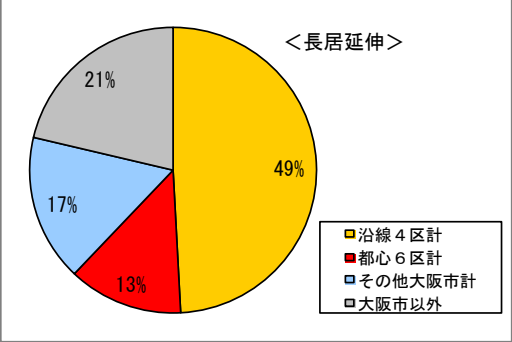
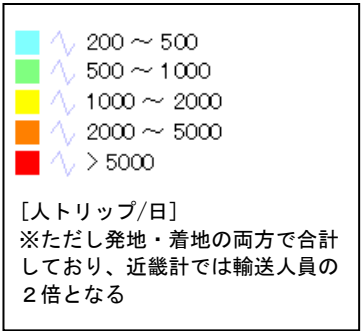
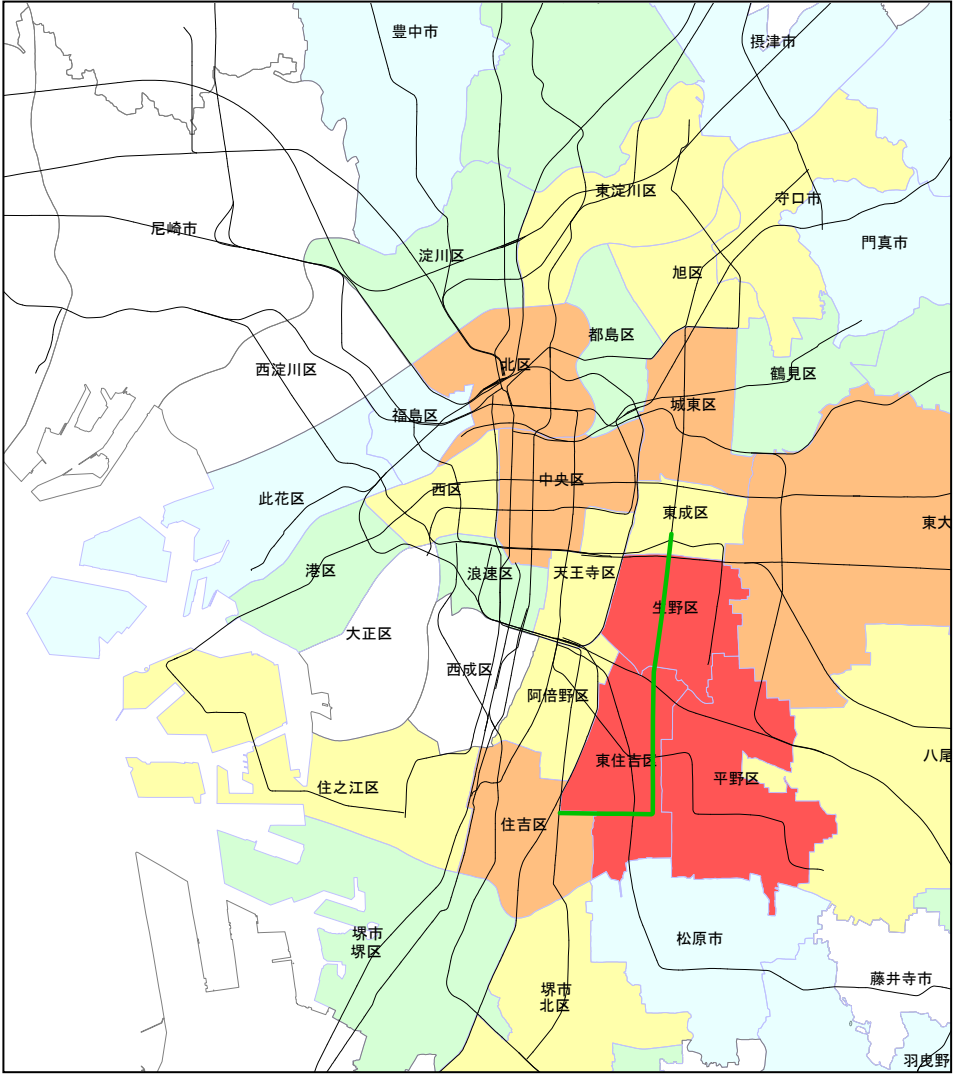


図 2-39 長居延伸での利用者の発着地分布(ケース:長居延伸)